

## 終末の信者(マルコ 13:1-8)

信者なのに現実につまずくときもあるし、落胆して心細くなるときもあります。いろいろな理由があるでしょうけれども、その理由の一つは、信者なのに未だに人生のテーマが変わっていないところにその理由があります。そのようにつまづかないで勝利できる信者になるために、信者の人生のテーマはどうであるべきでしょうか。今日の聖書を通してそのメッセージを聞いて自分のものにしていきたいと思います。

今日の聖書にはイエス様がエルサレムの神殿が破壊されることをおっしゃいます。それを聞いていた弟子たちが「いつそういうことになるのでしょうか」とワクワクしながら尋ねます。弟子たちがいつそういうことが起こるのでしょうかと聞いたのは、いよいよ終わりが来たのだなと思ったので、そういう思いでそのような質問をイエス様にしたわけです。つまり、やっとなローマの植民地が終わり、イスラエルが再建されて世界を支配する、そういう時がもう目の前に来ているのだなという思いで、神殿が壊れるということをサインだと聞きました。弟子たちはイエス様に従っているのにもかかわらず、彼らの人生のテーマはイスラエルの回復なのです。最後の最後にオリーブ山で 40 日の間、イエス様が神の国のことを語ったにもかかわらず、最後の質問も同じ内容でした。「今こそイスラエルの国を再建して下さるのでしょうか」。イエス様に従っているのにもかかわらず、テーマはまだ変わっていません。もっと分かりやすく申し上げますと、問題の解決こそが彼らのテーマです。しかもその問題の解決というのも全部肉体的なことなのです。そのような弟子たちの期待とワクワクの思いで質問したことに対して、イエス様が答えられた内容がマルコの福音書 13 章全体の内容です。そこでイエス様は弟子たちの期待とは裏腹に、終わりではないんだ。神殿が破壊されることは始まりのサインなんだよ。それからあなたがたは想像もできない苦難がずっと続くようになり、と同時に救いの働きがなされて救われるべきたましいがすべて救われるようになるよと。その時代の始まりを知らせるサインがエルサレムの神殿が破壊されることなんだということを宣べていらっしゃいます。そして、その時代が終り、救われるべきたましいがみな救われた後、イエス様は再臨なさる。その時に本当の終わりを迎えることになるというお話をされます。このイエス様のお話、また弟子たちの質問などを通して、今を生きるクリスチャンの私たちにイエス様がどのようなメッセージを語っていらっしゃるのでしょうか。

**1. たましいの救いを人生のテーマにする信者は、時代を正しく見て、主とともに歩む最高の人生を生きる。**  
まず第一に、たましいの救いを人生のテーマにする信者は、時代は正しく見るようになり、主とともに歩む最高の人生を生きることが出来ます。

人生のテーマがイスラエルの再建ではなくて、たましいの救いに変わらなければなりません。それがクリスチャン、キリスト教会です。そのように人生のテーマが今まで自分が持っていたものではなくて、たましいの救いになった場合にその人はすべてを見る解釈が変わります。そして自分が生きる今の時代がどういう時代なのかを正しく見極めることができ、その人の立場がどうなのか、弱い人間なのか、強い人間なのか、一切関係なく、主とともに歩む最高の人生をあるくことができ、勝利者となります。今日イエス様に質問していた弟子たちのように、イエス様に従っているのにもかかわらずテーマが変わっていない様子を見ながら、期待と裏腹にイエス様がおっしゃいました。

### 1) 時代は終末-本格的な救いの時代

終末の内容を通して私たちにそのように語りかけていらっしゃいます。私たちが生きる今の時代は終末の時代です。終末に対してさまざまな誤解がありますが、終末というのはいよいよ本格的な救いの働きがなされる時代という意味なのです。イエス様が十字架で死なれて、すべてを完了なさいました。それからよみがえられたあと、その完了なされた救いの祝福をもって地の果てにまで、すべての国々の人が救われるための新しい時代が幕を開けました。それを終末と言います。その時代の始まりを知らせるサインが、エルサレムの神殿が壊れて粉々になるというところにあったわけです。そして、エルサレムの神殿が破壊されて終末の時代がスタートし、それがいつ終わるのかは誰も分かっていません。つまり、いつイエス様が再臨なさるかには知らされていません。そして、クリスチャンの私たちににとってはそれがいつなのか全く関係ありません。

必ずすべての国の人々、すべての民族から救われるべきたましいがみな救われるようになれば、つまり救いが完成されることになれば、イエス様は再臨なさいます。そのときが終末の終わりなのです。終末は始まりがあり、終わりがある時代なのです。そして、その終末の時代は何のためにスタートするのかと言いますと、すべてを完了したと宣言されましたイエス様が勝利の主として復活なさり、t 天の御座に座って、地の果てまですべての国々の人々の中から救われるべきたましいを全員救うための時代なのです。それが終末です。

## 2) 時代(終末)のテーマは福音宣教(たましいの救い)

なので、当たり前がこの時代のテーマ、つまり終末のテーマは、たましいが救われることなのです。言葉を変えますと福音宣教こそが終末の時代のテーマです。特に先に救われた信者、教会を通して、万軍の主、勝利のイエス様が、すべての民族から救いの働きをなされるのが終末のテーマです。今、私たちはその時代を生きているクリスチャンです。終末が何か、この時代のテーマはなんなのかいうことを正しく理解しなければなりません。だからこそクリスチャンの人生のテーマは、今まで自分が好んで、あるいは自分のさまざまな思いで抱えていたテーマではなくて、それ全部切り捨てて、この時代のテーマ、神のテーマと一致させなければなりません。私たちが救われて、今の時代を生きて生かされている理由、そのテーマはたましいの救いにあるわけです。福音宣教のために私たちは生かされているものであるし、朝日が昇って日が沈み、仕事をしながらご飯を食べて、時には休憩をとったり、好きな人と結婚もしたり、そのすべてのテーマがたましいの救いになればなりません。これが終末という言葉の意味なのです。だからサタンにとってこの終末の時代は大変なのです。サタンにとってダメージの中のダメージであり、一番嫌いなそういう時代なのです。いつの時代も同じでしょうけれども、旧約の時代はまだ本格的にスタートしていないので、サタンにとって、人間的な表現で申し上げるとまだまだましなのです。しかし、キリストであるイエス様ご自身、本人が来られて、十字架で悪魔のしわざを打ち壊して、すべてを完了なさって、本格的にサタンの国を潰して、神の国を建てて、たましいの救いの働きをなさる時代がスタートしたので、サタンにとってはいちばん嫌になります。

## 3) サタンの暴れは終末のサイン

終末の時代の一つの特徴は、そのサタンが最後に暴れる時代でもあります。イエス様がおっしゃっているように偽キリストがたくさん起こされて、人々、教会も惑わすようになります。それがサタンが暴れることなのです。不思議に思っただけとはいけなく、戸惑ってはいけません。終末はそれが当たり前なのです。そして、戦争の噂が絶えません。今、私たちはそれを目の当たりにしているのではないのでしょうか。また、自然災害、気候の変動等によって食べ物に困り、飢え死になっていくような時代なのです。飢饉が起きます。そしてもう一つの特徴は、弟子たちはもう終わりなんだ、もうすぐハッピーエンディングなんだと楽しみに質問しましたけれども、そのクリスチャンが激しい迫害に遭うようになります。サタンが暴れるから。弟子たちが期待して予想していたようなこととは程遠いお話をしつらうのです。それでひどい場合は、家族が裏切り、クリスチャンを虐めるようなことを経験します。それが終末なのです。それからイエス様がいろいろな表現をされまして、大患難の時代を迎えるようになるので、その時は屋根に上った人は下りない方がいいよとおっしゃるほどのものすごく大変な患難を迎えて、そこを通らないといけません。なぜでしょうか。サタンが自分の時が終わるといことが分かって暴れるからなのです。なのにクリスチャンでもこれを見て終末のサインなのに変な方向にずれてしまうときがなんと多いのでしょうか。戦争の噂や迫害や大変な患難を迎えることがすべてサタンが暴れることであり、終末のサインなのです。だから、戦争の噂を聞くたびに慌てないで、今こそ本当に終末の時代なんだ。だからたましいの救いというテーマをさらに強く強く握って固めて、福音宣教のために残りの生涯、自分のすべて人生を捧げようじゃないかという決心をより固めるようにするためのサインなのです。どちらが勝つか負けるのかは私たちのテーマではありません。分かりますか。しかし、教会でクリスチャンでもこの終末の時代のテーマ、神のテーマであるたましいの救いが自分のテーマになっていないと、噂を聞いて終末のサインを見たにもかかわらず、それがその人にその通りに役に立つことができません。変な方向に行ってしまう。

## 4) 「目を覚ましていなさい」「テーマを忘れるな」

イエス様はこの終末の時代を宣べつつ、だからこそ目を覚ましていなさいとおっしゃいました。これはイエス様が再臨なさるので、いつなさるかよく分からないので、いつも目を覚まして、日にちを気にしながら緊

張していなさいという意味ではありません。日にちは知らされていないので、いつなのか分かりませんが、分かっていることは必ず来られるということです。なので、いつ、何日ということにこだわらないで、気にしないで、目を覚ましていなさいというのは、今の時代のテーマを忘れてはいけませんというメッセージなのです。目を覚ましていなさいというのは、あなたがたはいま終末を生きてるんだということを忘れないように。あなたがたに許されているテーマは、たましいの救い、福音宣教だけなんだということを何がどう変わろうが忘れてはいけません。これが目を覚ましていなさいということなのです。今日、マルコの福音書13章の前半だけを読んでいただきました。でも、今日のメッセージの内容は、マルコ13章全体の内容です。後ほどぜひ読んでみてください。イエス様はおろかな弟子たちの質問、テーマが全く変わっていない弟子たちの興味、弟子たちの関心、その質問に対して、人間的に申し上げると申し訳ないな、ごめんな、あなたがたの期待とは全然違うよ、これから苦難の時代が始まりますよということです。でもなぜそういうことが許されるかと言いますと、神様が永遠のいのちに定められたすべてのたましいをすべての民族から救うためなんだよ。その時代がスタートしたんだよ。終わりではありませんとおっしゃっています。なので当然、このテーマが自分のテーマになっているものはこのようになるしかありません。それが二番目です。

## 2. たましいの救いを人生テーマにする信者は、すべてを超越する巡礼者の人生を生きる。

たましいの救いを人生のテーマにしている信者ならば、すべてを超越する巡礼者の人生を生きることができます。

弟子たちのようにイスラエルの回復が、つまり問題の解決がどうなるのでしょうか。もちろん大切でしょうけれども問題が解決になるかどうか、あなたがたは知らなくてもいいよとおっしゃるように、問題を見捨てるわけではありません。それからイエス様を信じると、何も問題のない楽な人生になるという期待を持っているかもしれませんが、イエス様がおっしゃっているのは、そんなことはありませんよ。地上にいる間にはさまざまな困難とともに歩む者なんだよ。しかし、クリスチャンの特徴は、人生のテーマがたましいの救いに変えられている人であれば、その問題がどのような問題であろうが、それを乗り越えられるようになる。それが問題にならない人になるということがメッセージなのです。

### 1) 問題解決や苦難、患難、戦争、迫害に縛られず

つまり、問題解決等々に縛られることなどありません。超越なのです。さまざまな苦難に会い、患難に預かるようになりますけれども、崩れることなどありません。超越できるわけです。それがいいからハッピーではありません。また、戦争の噂などを聞いても慌てたり戸惑うことなどはありません。超越できるようになります。どのような迫害があっても揺れることなどありません。縛られることなどありません。それを超越できるようになります。なぜなのでしょう。それがどうであろうが、たましいの救いというテーマには何の問題もありませんし、もっと正確に申し上げると、そういったすべてのことを通してたましいの救いの働きが真っ当されていくようになります。これが不思議な神様の主権という素晴らしいみわざになります。すべてのことを働かせて益としてくださると言われる存在です。だから超越するので、巡礼者の道を歩いていけるようになります。いちいち何かがあるたびにそれに引っかかってふらふらするということでは、どのようにしてこの世を生かす証人としての人生を全うすることができるのでしょうか。無理です。なぜなのでしょう。キリストをよく分かっていないのか、イエス・キリストを信じて礼拝も捧げて、お祈りも捧げ、聖書も読んでいるにもかかわらず、テーマがいまだに昔のまま、世の中のテーマと同じテーマのままの場合には、霊的な戦いに勝利は無理なのです。神様が望んでいらっしゃることは、私たちが救われることです。恵みによって一方的に引き上げられ、救われました。その救われたクリスチャンに神様が望んでいらっしゃることは、テーマが変わることです。何の為に生きているのか。何を軸にしてすべてを見るようになるのか。そのテーマの修正というのが神様のなさることなのです。そのためにある人は病気も許される場合があるし、家庭が壊れる場合もあるし、これだあれだと一概には言えません。でも神様の目標は、それ一本に絞られます。それがクリスチャンなのに私たちにあるさまざまな困難を解釈する key なのです。なぜこんなことがあるのか。まず Only キリストなのか。それから自分は何のために生きているのか。生きる理由、目標、目的は一体なんなのか、それを素直に問いかけて見ればそこに答えは必ずあるはずなのです。だから縛られることはないのです、超越できるようになります。そのような人生を生きる人を巡礼者と言います。

## 2) 再臨のタイムにこだわらず

それから、イエス様ご自身がおっしゃったように、再臨はいつなされるのか、そのタイムなどもこだわることなどありません。つまり、再臨なされるタイミングからも自由なのです。それも超越するようになります。必ず来られるから。それで先ほども申し上げましたように、イエス様が40日の間、オリーブ山で神の国のことを語った後、弟子たちは「今こそイスラエルの国を再建してくださるのでしょうか」とそのテーマぶつけた時に、イエス様が使徒1:7でおっしゃいました。「それはあなたがたは知らなくてもいいよ」。どういう意味なんでしょうか。それが右に転んでも左に転んでもどう変わろうが超越しないとイケないよ。また別の言葉で申し上げると、テーマを変えなさいよ。なぜ未だにイスラエルの国が...と言っているのか。もちろん気持ち的に充分理解できます。国が何十年、何百年間、植民地の状態で国の主権を失い、さまざまな苦勞を強いられるような状態が続いていた場合、愛国心のある人たちはそれがテーマになるでしょう。けれどもクリスチャンは違うのです。神の国がテーマなのです。たましいの救いがテーマなのです。テーマを変えなさいよ。あなたが何を食べる飲むか、金持ちになるかどうか、家庭環境がどう変わるか、親がどうなのか、子どもがどうなのか。それがどうなるのかがテーマではない。テーマを変えなさい。

## 3) 使徒1:8だけにこだわり

それでおっしゃったの Only、テーマは一個しかない。聖霊が臨まれると、力を得て、地の果てにまでわたしの証人となるよ。使徒1:8、これだけにこだわり、これだけにテーマを絞りなさい。Only 聖霊の力だけをテーマにして、Only 神の国だけをテーマにしなさい。その神の国が自分に臨まれまして、現場に臨まれまして、そうすることで悪魔サタンの暗闇の国が崩れるようになるので、それ以外には方法がありません。どんなに科学が発展して、AI がどうのこうのといっても、暗闇の国、サタンの国が壊れることなどはありません。だから地球のテーマはAIではなくて、聖霊の力を信者がいただいて、その信者の内側に神の国が臨まれまして、その神の国が信者がいる、行く現場に現れることで悪霊が追い出されて、サタンの国が砕かれていくことがテーマなのです。これだけにテーマを絞りなさい。そのために Only 力を得たら。聖霊の力に預かることだけをテーマにして、それで証人になるわけですから。聖霊の力によって証人になること。会社を経営してる人でも、そこで従業員になる人でも、商売をする人間でも、家庭の主婦でもテーマは聖霊の力に預かることであり、その現場、その職において証人となること、そこにテーマを絞らないといけません。そうイエス様がおっしゃったわけです。たましいの救いが人生のテーマになる信者は、使徒1:8だけこだわるようになり、こだわりが片付けられるので、とてもシンプルな人間になります。頭が複雑ではありません。だからといって何も分かっていないあほなのかという逆なのです。すべてが分かっているからシンプルなのです。

## 4) 集中の内容が変わる

結果、たましいの救いを人生のテーマにする信者は、集中の内容が変わります。自分のどうのこうのから神様に集中の方向が変わります。地上にあるものではなくて、御座あるもの、御座の祝福が集中の内容になります。実は集中といっても自分、あるいは地上のものというのは執着なのです。変わります。いちいち全部がこだわりになると、結局頭がおかしくなります。私たちがこだわるからといって全部分かって答えが見えるわけでもないし、解決できるわけでもありません。なのにこの集中の内容が変わっていないと、人間は仕方なくいちいち全部引っ張られるようになるわけです。現実ですから。「いや、しょうがないんじゃないか」と言うようになります。しかし、正確に申し上げると、神様のことも御座の祝福も、目に見えない世界なども全く分かっていないがゆえにいちいちすべてにこだわるようになるしかありません。頭の良い人間こそ計算が多いんです。自分の計算の中で生きるわけです。その自分の計算が全く無いままというのもよくありませんけれども、その計算が神様なのです。自分の計算通りにやるということがどれほど限界があり、愚かなことなのかを一回でも認めるようになればいいのですが、頭の良い人間はそれがなかなか難しいのです。人間は計算によって生きるわけではありません。なぜこう言えるのか。私がそういう人間でした。いろんな人を調べて比べたことはありませんが、たぶん世界でいちばん計算深い人間だったと思います。将棋で言いますと何百手先を読んだりするでしょう。将棋をやったことがないから分かりませんが、人生において頭の中で神様と全く関係なく何百手も先走って... だから痩せこけてピリピリしている。周りの人間見ると「なんであんなに鈍くて鈍感なの」とイライラするしかありません。自分が頭が良いからそれが正解だと勘違いして生きるわけです。そういう人は周りからも好かれませんが、人間の関係も壊れますが、自分のせいで壊れる

ということも気づかないのです。頭が良いというのは、本当は良いわけではありません。神様を離れている人間に何が良いものがあるのでしょうか。クリスチャンになったにもかかわらずその部分が修正されないと、テーマがたましいの救いになかなか変わらないのです。そうすると、自分が生かされている今の時代がどういう時代なのかも正しく見ることはできません。結局、神様とも合わないし、時代とも合わないのでぐちゃぐちゃになる結果を迎えようになります。

なので、今日のこのメッセージを心に留めて、このようにぜひ黙想してみてください。私は誰なのか。何のために生きるのかを問いつつ、その答えを自分で出すのではなくて、自分の目線でそれに答えようとしなくて、神の目線でその答えを見ようとぜひ黙想してみてください。私は誰なのか。今朝も柳先生がおっしゃいました。自殺はなぜするのかというと、自分で自分を見るからです。自分で自分を見た時に全く希望が見えないので終わりにするわけです。神様がその人を見たときには、どんなにどん底の人間、どんなに惨めな人間でも、希望があるように見ていらっしゃるのです。祝福のために見ていらっしゃるのです。律法によって石打ちにされて殺されるしかなかった女の人は、周りも本人も自分をそのように見たでしょうが、神様をご覧になったときには、その人も悪魔の奴隷の状態でそうなるしかなかったのだからキリストが必要でキリストによっていのちを与えられ回復できれば、その人を通して多くの人が生かされるようになります。そういう目で神様は人を見ていらっしゃるのです。自分を誰なのかと問いかけるときにも、自分で答えを出してはいけません。神の目線で答えを見ようとしましょう。

その結果、自分の人生のテーマを素直に認めて、それを正して、たましいの救い、福音宣教がテーマになり、神様と方向が一致する信者、時代とマッチする信者、時代の主人公としての人生を歩いていくようにしましょう。そのような内容をまとめたのが、聖餐の告白と信仰の宣言です。それを自分のものとして真剣に告白してみましょう。それで超越の人生、巡礼者の人生、終末の信者として勝利の人生を歩んでいきたいと思うし、パウロ、ダビデの告白が自分の告白になるようにしましょう。ピリピ1:18「すると、どういうことになりますか。つまり、見せかけであろうとも、真実であろうとも、あらゆるしかたで、キリストが宣べ伝えられているのであって、このことを私は喜んでいきます。そうです、今からも喜ぶことでしょう」。パウロのことを考えて福音宣教に励む人、パウロを苦しめる為に福音宣教に励む人、両方いたわけです。どちらでもパウロにはテーマがたましいの救いなので関係ありません。このテーマに有利なことであれば喜ぶよと超越しているパウロの姿なのです。味方なのか、敵なのか、それも関係ありません。どうしたらキリストの御名が崇められ、福音宣教に有利になるのか。益になるのか。それだけがテーマなのです。だから超越できるわけです。ピリピ4:13「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです」。超越です。なぜでしょうか。テーマが患難も迫害も上も下もどんなことでも止めることができない、変えられない、たましいの救いがある人のテーマになっているから。レムナントの皆さん、才能あるかどうか、成績悪いか良いか、何も心配しなくて結構です。テーマが福音宣教、たましいの救いに決まっている人はすべてを超越するようになります。私を強くしてくださる方にあつて、なんにも私には問題になりませんという告白なのです。皆さんもよくご存知の詩編23編をお読みします。ダビデはキリスト、たましいの救い、神の国がテーマだったので、死の影の谷を歩いてもそれが問題になりません。なぜでしょうか。死の影の谷がそのテーマを潰すことなどできません。もっと正確に申し上げると、その死の影の谷、その苦難と迫害がたましいの救い、キリストというテーマをより引き立てることになります。これが不思議なクリスチャンの生き方です。だからサタンが跪くようになるしかありません。「主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます」。死の影の谷を歩くことはこういうことなのです。「主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそそいでくださいます。私の杯は、あふれています。まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。私は、いつまでも、主の家に住まいましょう」。超越の人生。巡礼者の人生です。いちいち全部こだわって引っかかってどうしましょう。テーマを変えない限りは。たましいの救い、このテーマは神のテーマであり、誰も変えること、止めることはできません。なので、宇宙がどう変わろうが、このテーマは変わらないどころか、宇宙のすべての変化はこのテーマのためになります。だから超越するようになるのです。皆さんが今ぶつかっているさまざまな現実、あるいは自分自身の内側のさまざま

まな弱さ等々をそのように解釈して自由になり、信仰の足を一步前に踏み出す、そういう機会になればいいなと思います。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございますありがとうございます。今私たちが生きる時代は終末の時代であり、その終末のテーマはたましいの救いであることを正しく理解し、クリスチャンである私たちがその時代の主人公であるという自覚を持って自分を省み、もしかしていまだに人生のテーマが今までのものであり肉のものであれば、テーマを変える最高の祝福のときを味わうようにひとりひとりを祝福してください。それで残りの生涯を巡礼者、超越の格好良い生涯を歩けるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン